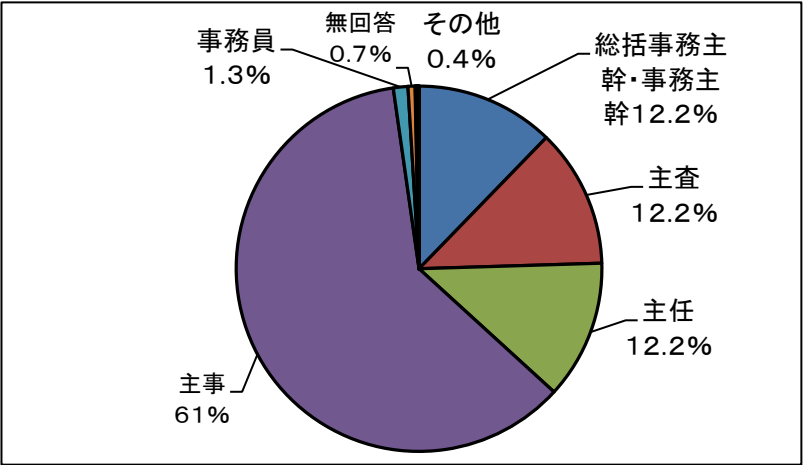


# 新潟県学校事務研究協議会第34回研究大会 アンケート集計・考察

新潟県学校事務研究協議会 大会運営班

アンケート回答数 310 参加申込数 546 回収率 56 %

| 職 名 別             | 人 数 |       |
|-------------------|-----|-------|
| 総括事務主幹<br>事 務 主 幹 | 38  | 12.2% |
| 主 査               | 38  | 12.2% |
| 主 任               | 38  | 12.2% |
| 主 事               | 189 | 61.0% |
| 事 務 員             | 4   | 1.3%  |
| 無回答               | 2   | 0.7%  |
| その他(学生)           | 1   | 0.4%  |
| 合 計               | 310 | 100%  |



## Q1 : 全体会についてお聞きします。

- ◆ Q1-① 自分のこれまでの取り組みを振り返って、どのように感じましたか。
- ・ 貧困問題やカリキュラムマネジメント、社会に開かれた教育課程に学校事務職員として関わっていることがわかり、より一層取り組めることを考えようと思った。
  - ・ 学校での教育カリキュラムにどのように関わっていくか考えさせられた。学校事務には関係ない、あまりなじみのない教育カリキュラムであったが、今回の全体会で学校事務への関連性を実感することができた。
  - ・ 「チーム学校」は主体的に参画していくことだとわかり、1年目は良いとしても、これからは受け身だけでなくどんどん自分から発信してマネジメントに参加していきたいと思った。
  - ・ 時代は大きく変わって、学校事務職員の仕事に対する姿勢が問われているのだと思った。
  - ・ 田村准教授の講話中にあったカリキュラムの取り組みに関わっていることを確認できた。パターン化する仕事はAIに取って変わる。考える、柔軟に取り組むのが人間の特技、これをカリキュラムマネジメントでは必要と感じた。
  - ・ 新しいことをするわけではなく、今までしてきたことをカリキュラムマネジメントの視点から考え、ただやってきたことの意味を考えて業務をすることが大事だと思った。
  - ・ カリキュラムマネジメントは新しい言葉のように感じていたが、これまで行ってきたことを、より意識的に行うことなのだと感じた。教科横断するということがよく理解できた。学校内でも関わっていきたい。
  - ・ 研究大会でのキーワード「社会に開かれた教育課程」「カリキュラムマネジメント」は自身にとっては新しく聞く単語で新しく何かをするのかと思ったが、全体会を通してこれまで行なっていたことだと分かった。今後もっと結びつけていきたい。

### <考察>

受講前までは「チーム学校」「カリキュラムマネジメント」という言葉が、新しい言葉のように感じられ、学校事務職員とはあまり関係のないものとして認識していた会員が多かった。しかし、講師による時代背景の説明と具体的な事例や実践紹介、また、研究部の発表による調査活動に基づいた実態の考察により、カリキュラムマネジメントは日々の業務そのものであり、身近なものであったと実感できた様子を読み取れた。多くの会員がカリキュラムマネジメントの視点を強く意識し、今後の業務へ取り組んでいくことが期待される。

- ◆ Q1-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。
- ・ 地域のことについて調べたり、先生方が校外学習や授業で取り扱っている内容に関心を持っていきたいと思った。
  - ・ 目標は明確か、手段は適切かというお話があった。効率よく仕事を行うために、何を目指しているのかを意識して仕事に取り組みたいと思った。
  - ・ せめて一年間の授業の内容を頭に入れて全体の流れをつかむところから取り組みれば、自分にできることが発見しやすくなるのかなと思った。
  - ・ それぞれの業務を独立したものと捉えるのではなく、全て結び付けて効率よく業務ができるのではと感じた。企画委員会に参加し、学校事務職員の目線から協働で組織運営をおこなっていきたい。

- ・ 教科の使用物品から授業の取り組みを推測し、立体的なカリキュラムにつなげられるように提案してみたい。
- ・ 自分の業務を振り返り、反省点・改善点を抜粋してみようと思う。業務の改善にもなり、スリム化を図ることで各分掌とも連携しやすく一層組織の強化を進める事にもなると思った。
- ・ 無意識に行っていた事をあらためて意識づけし、特に予算執行に反映させようと思う。運営委員会での提案方法をもう少し考えようと思った。
- ・ 授業や教育課程を理解、把握することで、教育目標を達成するためのマネジメントに学校事務職員も貢献できるのではないかと思った。

#### <考察>

カリキュラムマネジメントについての理解が深まり、目的意識を持ち、財務委員会や運営委員会への積極的な情報発信等自校における様々な取組をイメージし、実践に繋げていこうという会員の意識・意欲の向上が見られた。チーム学校の一員として今後の学校運営へのより積極的な参画について具体的な取組をイメージできたと思う。

### Q2：参加された分科会・講座研修についてお聞きします。

#### ◆ 参加された分科会・講座研修はどちらですか。

|               | 分科会 1 |       | 分科会2 |       | 講座研修A |       | 講座研修B |       |
|---------------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 よく理解できた     | 28    | 68.3% | 51   | 71.8% | 51    | 60.0% | 42    | 40.0% |
| 2 おおむね理解できた   | 12    | 29.3% | 16   | 22.5% | 28    | 32.9% | 54    | 51.4% |
| 3 あまり理解できなかった | 0     | 0%    | 0    | 0%    | 0     | 0%    | 2     | 1.9%  |
| 無回答           | 1     | 2.4%  | 4    | 5.7%  | 6     | 7.1%  | 7     | 6.7%  |
| 合計            | 41    | 100%  | 71   | 100%  | 85    | 100%  | 105   | 100%  |

#### ◆ Q2-① 分科会・講座研修に参加して、自分のこれまでの取り組みを振り返って、どのように感じましたか。

##### 【分科会1】

- ・ ヒヤリハットをそのままにしていた。校内で危ない場面は多くあるので、職員で共有して意識を高めていかないといけないと感じた。
- ・ 危機管理について自分が何をすべきか、何ができるか。積極的に考えていなかったと反省している。
- ・ 食物アレルギーへの対応は、研修会や校内での情報共有をしており、事前の危機管理は意識していたが、事故が実際に起きた時のクライシスマネジメントをしっかりできるように、リスクマネジメントをもっとしっかり考えていきたい。
- ・ 身近な事例を取り扱ったが、いざ自分がその場にいたらどう対応するだろうか。適正な対応ができるだろうか、考えさせられた。
- ・ 自分自身の防災関係の研修や避難訓練時の役割など考えることはたくさんあると感じた。

#### <考察>

プラス1キーワード「防災・危機管理」の2年目であったことや、今年4月の熊本地震の記憶も新しく、危機管理に対する意識が会員に高まっている様子が窺える。また、身近である食物アレルギーを題材としたグループ討議では、実際に起こってしまった事故例を扱ったことで、自校の現状や課題を具体的に考えるきっかけとなったようである。今後の実践や改善に向けてそれぞれが学校事務職員として取り組めることのヒントを得られる良い機会になったと思う。

## 【分科会2】

- ・ 生徒との関わりや取組が足りなかったと思った。授業だけでなく事務として生徒と関わることがよくわかった。
- ・ 若い方々の取組みにただただ感心した。今まで考えつかなかったこともあったので、ぜひ参考にさせてもらいたい。
- ・ 「自分の仕事を超えている」と感じる事があるかもしれないが、それは学校にとって大きな損失である。という丸山先生の言葉が胸に響いた。
- ・ 問題意識は心の中にあっても、行動や言葉に出来ていなかったと感じた。「気づき」「発見」を自ら進んでしてみようと思った。
- ・ 実践しているものもあったが、初めて聞く取組みもありとても参考になった。漠然と「やらなければ」と思っていたことが具体的な内容で説明されていたので、とても有意義だった。

### <考察>

新潟支部の日々の気づきを実践に繋げた若手の取組や堂々とした発表態度には称賛の意見が多数あった。また、新潟支部の若手が自信をもって取り組める風土を築いている様子に、今後の各支部での人財育成の参考にしたいという意見も見られた。発表者の独自のアイデアや新しい視点に刺激を受けたり、フリーディスカッションで実践発表者と直接参加者が質問や意見を交換することや、その場にいた参加者全体で取組の今後の展望を考えることで、自校での取組についても考える有意義な機会となったと考える。

## 【講座研修A】

- ・ 今までも点検を行ってきたが、今回の研修を通じてより細かく点検していきたい。
- ・ 実際の事例を聞くことができて、とてもいい機会になった。自校の取組みも少し他の職員への周知が足りていなかったこともあると気づいた。
- ・ 他校の安全点検カードを見ることができてとてもよい機会だった。
- ・ 施設の管理は、日常の点検が大切だと改めて感じた。
- ・ 法令を理解していなかった。
- ・ 施設・設備を手引きを見てじっくり勉強したことは今までになかったと思った。

### <考察>

主に採用1～5年目の主事の参加であった。受講前は施設設備について今まで深く考えず安全点検をしていたという意見や、施設管理に関する知識がないという会員が多かった。講義やグループワークをとおして施設管理は児童生徒が安全に過ごすためにいかに重要か、そして職員との協働が大切であることを認識できたようだ。また、講義で「学校事務の手引き」を活用したことで、研修後も施設管理に関わる基本的な法令を再確認することができ、「学校事務の手引き」が他の研修にも活用できるという意識にもつながったと考えられる。

## 【講座研修B】

- ・ 今までではただ業務をこなすのみで教育目標やカリキュラムに繋げてみるということは今まで考えもなかったことだったので、とても新しい刺激を受けた。
- ・ 実践発表を聞いて、気づくことの大切さ、日ごろから意識することの大切さを痛感した。固定概念にとらわれず、やわらかい頭と心で明日から仕事にむかいたいと思った。
- ・ 予算委員会やデータ管理、その他様々な面で、子どもの顔、保護者、地域の顔を思い浮かべていないことに気づいた。
- ・ 学校評価や学校事務委員会を活用して事務改善に取り組んできた。職員の声を取り入れて、マネジメントを行っていききたい。
- ・ 最初からあきらめたり、先生方の声を取り入れなかったこともあった。1つ1つの声を大事にして、無理と決めるのではなく、どうやったらいいのか考えていくようにすることが大切だと思った。

### <考察>

今までは、業務の先にある「子どもたち」をあまり意識せずに業務を行っていた様子が読み取れた。しかし、実践紹介や、講義を聞くことでチーム学校の一員として意識が生まれ、今後の業務では目標や目的を意識した積極的な関わりが期待できると考える。また、グループワークで会員同士が話し合うことにより、新たな気づきや取組への助言を持ち帰ったり、自身の取組に自信を深めることができた会員もいた。

◆ Q2-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。

- ・ リスクマネジメントについて、危機管理マニュアルが具体的に作成できていないため、取り組みを進めていきたい。(分科会1)
- ・ AEDや防災グッズの整備について考えてみたい。(置き場所等) (分科会1)
- ・ もっとやりたいこと、アイデアを考えだけでなく実践してみたくなった。(備品) (分科会2)
- ・ 聞こえてきた要望等はまずメモし、形に残し、声の発声元へ返して一緒によりよい方策を考えたいと思った。(分科会2)
- ・ 子どもたちが安全に過ごせるような学校づくりをしていきたいと思った。(講座研修A)
- ・ 今日の研修で様々な学校の点検カードを見ることができたので、自校の点検カードにない項目についても点検してみたいと思った。(講座研修A)
- ・ 先生方との関わり合いを大切に思ったことは積極的に声を出していきたいと思った。声に出すことで意識できるし、先生方に声をひろってもらえることもあるかもしれない。(講座研修B)
- ・ 日々の業務にこどもたちの顔、地域、保護者、学校の事を最終的に見据えて取り組んでいきたい。(講座研修B)

<考察>

各分科会、講座研修で得た知識と情報を活用し、学んだことを実践していきたいという意見が多数あった。今後自校では何ができるのか、自分ならどんなアプローチをしていくか、具体的にイメージできたようだ。また「若手から元気もらった」「明日からまた頑張ろう」という意見も多数あり、意欲の向上にも繋がった。また、昨年度再開した支部発表分科会の活用により、支部や共同実施において人財育成や組織の活性化等の効果を生み出しているように思われる。今後ますます会員の実践が継続的かつ発展的なものになっていくことを期待したい。

**Q3 : 研究大会全体を通してお聞きします。**

◆ 研究大会全般について、感想や意見をご記入ください。

- ・ 明日の自校の取り組みのヒントになった。
- ・ 学生という立場で参加し、職員の方々の生の声を聞くことができ、とてもためになった。より一層学校事務を志望する気持ちが強くなった。
- ・ 義務教育課長大野様が最後に「自分を戒め、仲間の力で何とかする自衛(ポジションを守る、需要を考える)」とおっしゃったことが一番自分の中に残っている。今、この現状をきちんと受けとめ、努力したい。
- ・ 実践事例を聞くととても参考になる。(できることからやってみようと思える。)
- ・ 素晴らしい講師、講義内容だった。研究部提案・実践発表ともにわかりやすく、一連の流れが効果的に働いていた。とても充実した一日を会員全員で共有できたことに感謝。
- ・ 大変参考になった。カリキュラムマネジメントが身近に感じられた。
- ・ 新しい時代の学校事務がごくふつうに話されていることが、素晴らしかった。あたりまえのレベルを上げていくことは大切。

<考察>

昨年度のアンケート回収率は59%だったが、今年度は56%と昨年に引き続き下がった。来年度はアンケート回収率を上げられるよう、分科会・講座研修会場でもPRをする等、今後さらに検討を重ね対策を考えていきたい。大会の開催時期や曜日に関しては、朱鷺メッセの空き状況により35回大会も月曜開催となる。都合をつけて参加いただきたい。また、空調に関する要望も毎年あるが、事前にお知らせしているとおり今後も各自で対策をとって頂けるようお願いしたい。

開会式から県教委講話までの時間がもったいない、連絡事項が多いとの意見もあった。運営上必要な時間のため、連絡を行うタイミングや連絡内容の精選等、会員が無駄な時間と感ずることがないように今後の検討課題とする。

今年度は専門学校の学生が参加してくれ、「一層学校事務を志望する気持ちが強くなった。」とうれしい意見があった。

1日を通してチーム学校というキーワードに向けて、カリキュラムマネジメントや危機管理など一連の流れとなっており、初めて扱うテーマであったが会員の理解が深まったようだ。全体会・分科会・講座研修ともに実践情報を会員に提供できたことが、会員一人ひとりが自校の課題を見つめ直し改善策を考え実践したいとの思いに繋がったようだ。今後も学校事務職員に求められるものと、会員のニーズに合わせ、より実りある研修会を引き続き運営していきたいと考える。

\* アンケート及び大会申込み時に寄せられた皆様の声を受け止めながら、次回大会、そして今後の研修に生かしていきたいと思えます。大会への多くのご参加、アンケートのご協力に感謝申し上げます。